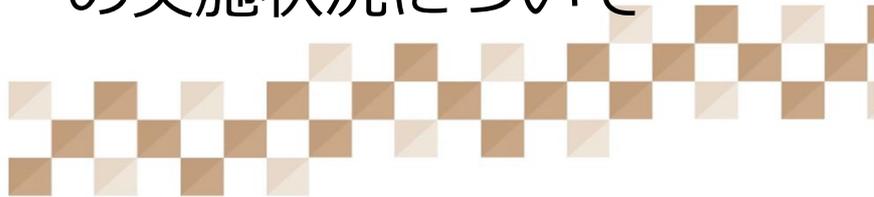


# 森林整備広域連携モデル事業 の実施状況について



令和6年12月10日  
千葉県 森林課



1

## 森林整備広域連携モデル事業～千葉県での取組～

- (1) 千葉県の概要
- (2) 千葉県の森林環境譲与税の状況
- (3) 広域連携の取組
- (4) 森林整備広域連携モデル事業
- (5) 課題と今後の展望

2

2

## (1) 千葉県の概要

森林面積	約 150,000 ha
私有林人工林	約 49,000 ha
人口	約 630万 人
林業就業者数	487 人
森林環境譲与税	約 8億8千万 円

※数値は、令和2年国勢調査  
及び農林業センサスから  
※譲与税額はR 5 県市町村合計



3

## (1) 千葉県の概要



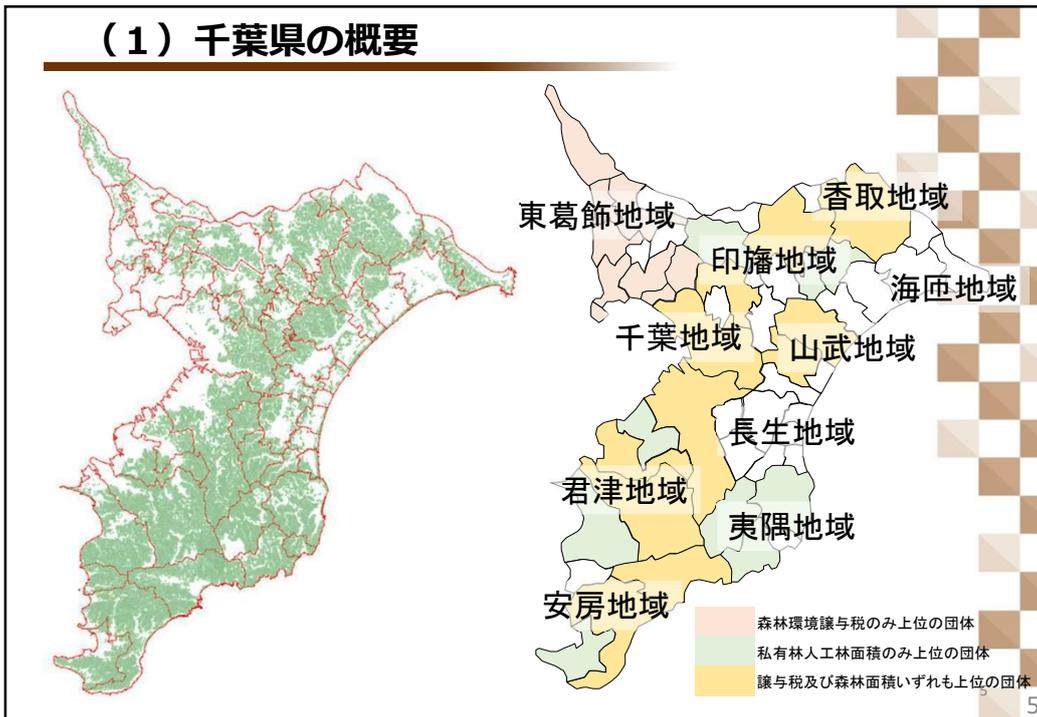
環境譲与税が

**少**なめ

- 台風被害林の整備費用が大きい
- 整備費用が足りない
- 間伐の費用に充てる余裕が無い

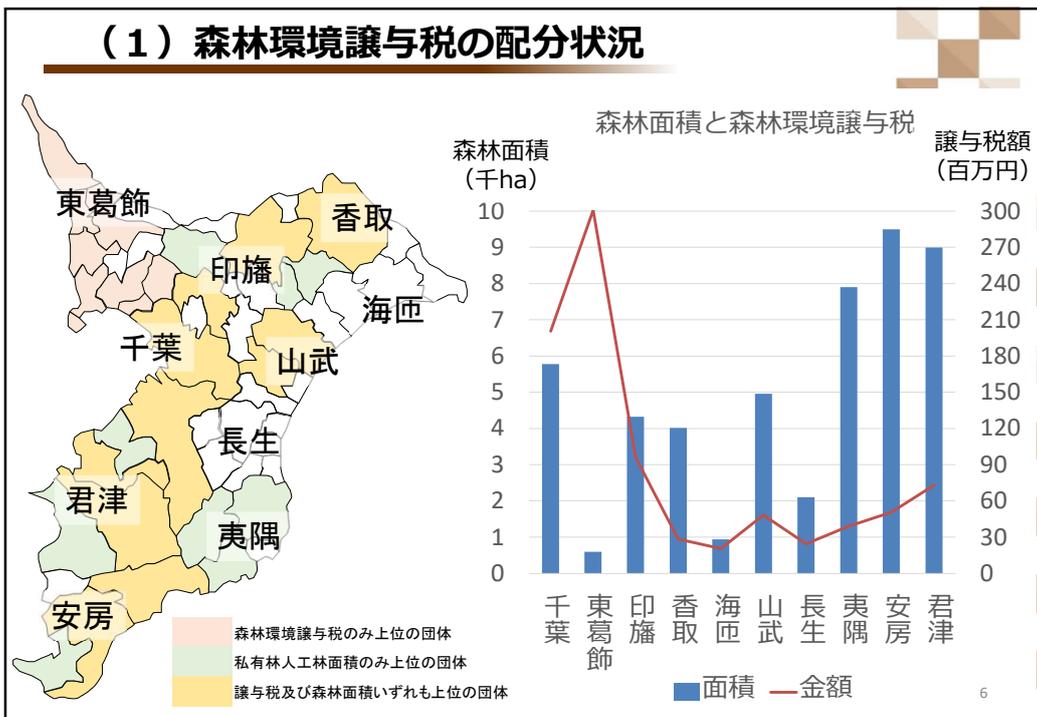
4

## (1) 千葉県概要



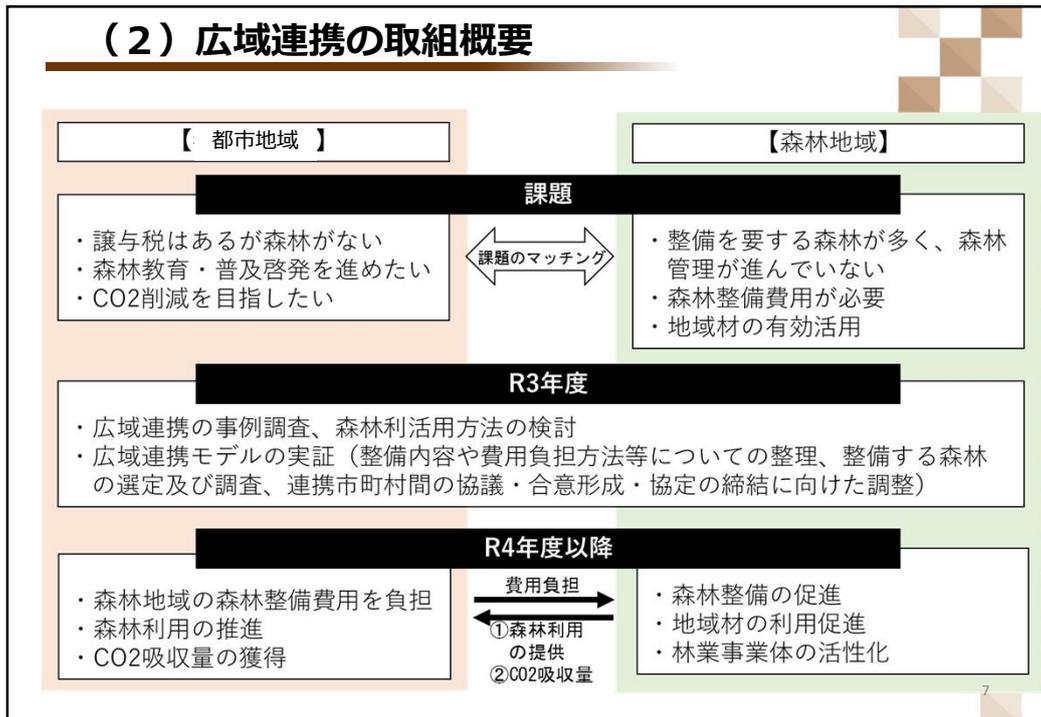
5

## (1) 森林環境譲与税の配分状況



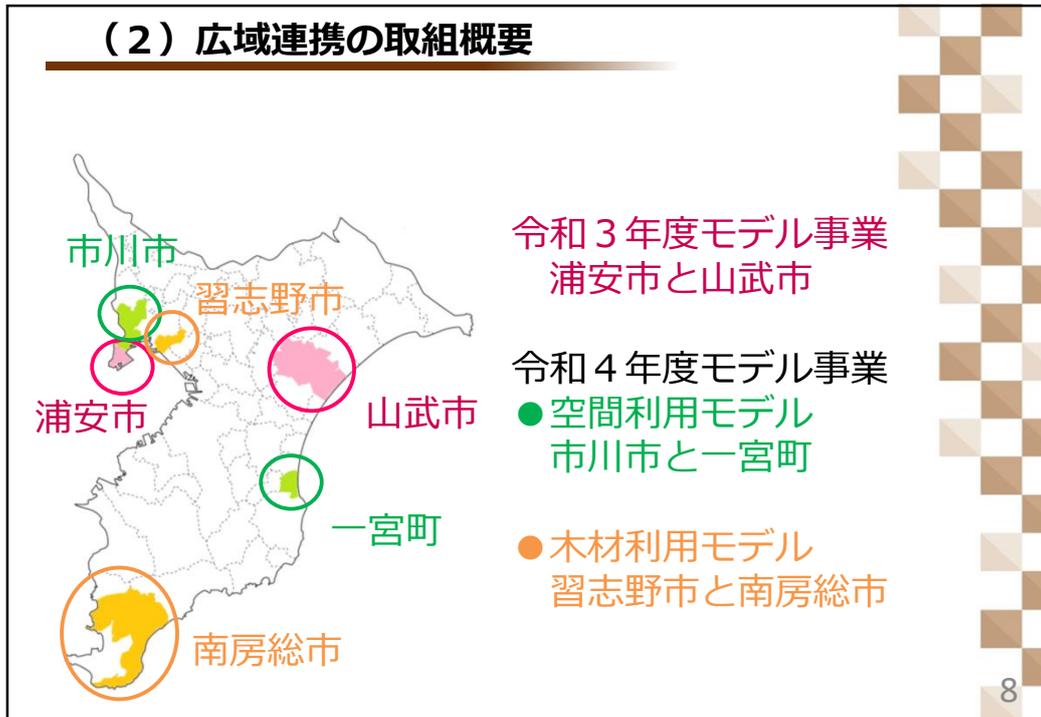
6

## (2) 広域連携の取組概要



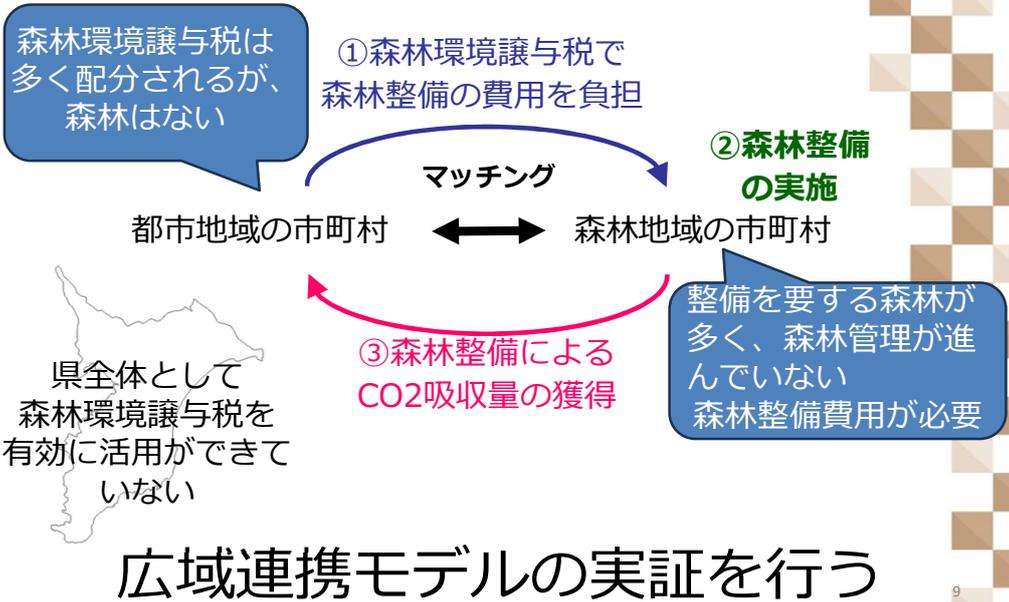
7

## (2) 広域連携の取組概要



8

### (3) 森林整備広域連携モデル事業



9

### (3) 森林整備広域連携モデル事業

## 森林整備広域連携モデル事業

(県からの業務委託で実施)

委託先 : 千葉県森林組合連合会 ※

内容 : 事例の調査・連携モデルの構築

県内市町村への聞き取り

モデル市町村の選定とマッチング

※ 千葉県森連は、市町村が取り組む森林・林業施策の相談やサポートを行う組織である「千葉県森林経営管理協議会」の事務局

10

10

### (3) 森林整備広域連携モデル事業～令和3年度～

## 浦安市と山武市でマッチング



#### 浦安市

地域森林計画対象民有林が  
存在しない

#### 山武市

山武市では、市として様々な森林整備の促進のための取組を行っており、森林整備に関して知識や理解がある

### 森林整備 千葉県 浦安市・山武市（自治体間連携）

- ▶ 山武市では、令和元年房総半島台風以降、特に森林整備が課題となっている。
- ▶ 浦安市は、森林を有していないため、森林環境譲与税の有効な活用方法を検討している。
- ▶ そこで、令和3年度に締結した協定に基づき、浦安市の森林環境譲与税を活用して、山武市内の森林整備を開始した。

#### 事業内容

- ・山武市の森林整備の一部を浦安市が森林環境譲与税で負担
- ・森林整備によるCO2吸収量を浦安市に還元
- ・山武市産木材を加工した木製品の提供

#### 【実績】

令和4年度	森林整備補助(10/10) 間伐3.55ha	森林整備によるCO2吸収量の還元 38.4t-CO <sub>2</sub>
令和5年度	森林整備補助(10/10) 間伐4.78ha	森林整備によるCO2吸収量の還元 27.2t-CO <sub>2</sub>
	木製品提供	サンブシの折り紙

#### 取組の背景

「浦安市と山武市の連携による森林整備の実施に係る協定」を令和4年3月23日に締結

- ・千葉県の市町村は、譲与税が多い都市部は森林が少なく、比較的森林が多い山村地域は譲与税が少ない傾向にある。
- ・千葉県の仲介によって、県内第1号の協定を締結した。



(令和3年度の協定締結式)



(間伐された森林)



(サンブシの折り紙)

#### 工夫・留意した点

- ・ゼロカーボンシティを宣言している浦安市に対して、CO2吸収量を少しでも多く還元できるように引き続き間伐を実施した。
- ・対象となる間伐ができる森林が限られているため、早い段階で各事業体と調整し、場所の選定をした。

#### 取組の効果

- ・山武市では、台風の風倒木処理やサンブシの満腐れ病対策としての皆伐が中心であったが、本事業を契機に間伐が進むようになった。また、市民の関心も高まり、新たに森林所有者が森林整備する事例も出てきた。
- ・サンブシの折り紙については、浦安市の1歳6か月児健診時に配付している。
- ・協定に基づき、令和4年度から両市の相互交流について検討しており、令和5年度は相互のイベントへの出店や、浦安市民が山武市に赴き両市民で合同植樹祭を実施した。

#### 基礎データ

山武市		
①令和5年度譲与額:15,686千円	②私有林人工林面積(※1):2,744ha	
③林野率(※1):26.9%	④人口(※2):48,444人	⑤林業就業者数(※2):14人
浦安市		
①令和5年度譲与額:17,924千円	②私有林人工林面積(※1):0ha	
③林野率(※1):0%	④人口(※2):171,362人	⑤林業就業者数(※2):0人

※1:『2020農林業センサス』より、※2:『R2国勢調査』より

(4) 森林整備広域連携モデル事業～令和4年度～

**空間利用モデルと木材利用モデル**

(県からの業務委託で実施)

委託名 : 森林整備広域連携…事業業務委託

委託先 : 千葉県森林組合連合会

内容 : **空間利用モデル**

都市部と山間部との市民交流・「千葉県木育推進方針」の方向性に沿ったイベント実施

**木材利用モデル**

地域産材の利用ルートの構築・持続可能な森林整備により生産される木材の利用

13

13

(4) 森林整備広域連携モデル事業～令和4年度～

**市川市と一宮町でマッチング**

(空間利用モデル)



市川市

一宮町との連携の意向を示す  
(町の管理する森林で、広場や散策路、  
トイレ等が整備されており、また、  
周辺に自然豊かな環境が整っている)

一宮町

一宮町憩いの森において森林整備  
を行いたい、一宮町に譲与され  
る森林環境譲与税だけでは整備費  
用が不足

14

14

**森林整備 千葉県 市川市・一宮町（自治体間連携）**

- 一宮町では、町内の憩いの森周辺の森林整備を検討していたが、譲与税では不足していた。
- 市川市は、森林をこくわずしか有しておらず、森林環境譲与税の有効な活用方法を検討している。
- そこで、令和5年度に締結した協定に基づき、市川市の森林環境譲与税を活用して、一宮町内の森林整備を開始した。

**事業内容**

- 一宮町の森林整備の一部を市川市が森林環境譲与税で負担
- 森林整備によるCO2吸収量を市川市に還元
- 森林整備で発生した一宮町産木材を加工した製品の提供

【実績】令和5年度  
 森林整備補助(10/10)間伐2.21ha  
 木製品提供 ウッドチップ  
 (市川市動植物公園)  
 森林整備によるCO2吸収量の還元 30.8t-CO<sub>2</sub>

**取組の背景**

(当初見込数値)

「市川市と一宮町の連携による森林整備の実施に係る協定」を令和5年8月28日に締結

- 千葉県の市町村は、譲与税が多い都市部は森林が少なく、比較的森林が多い山村地域は譲与税が少ない傾向にある。
- 千葉県の仲介によって、県内第3号の協定を締結した。



(令和5年度の協定締結式)



(森林整備写真)



(ウッドチップ)

**工夫・留意した点**

- カーボンニュートラルシティを表明している市川市に対して、CO<sub>2</sub>吸収量を少しでも多く還元できるようにまずは間伐を実施した。
- ウッドチップの納品場所に、森林環境譲与税を活用した旨を記載した看板を設置した。
- 搬出した木材については、次年度以降の木製品への加工を見据え、皮むきを実施した。

**取組の効果**

- 一宮町では、財源確保などを理由とし、整備が進まなかった里山地域に、継続的な整備を実施することができる。
- 令和5年度提供のウッドチップについては、市川市動植物園に設置を開始する。
- 協定に基づき、令和6年度は両市町の相互交流が検討され、令和6年10月12日に、両市民が参加する合同イベントが実施された。

**基礎データ**

**一宮町**

①令和5年度譲与額：1,570千円	②私有林人工林面積(※1)：104ha
③林野率(※1)：27.3%	④人口(※2)：11,897人
	⑤林業従業者数(※2)：0人

**市川市**

①令和5年度譲与額：52,274千円	②私有林人工林面積(※1)：10ha
③林野率(※1)：2.1%	④人口(※2)：496,676人
	⑤林業従業者数(※2)：2人

※1:「2020農林業センサス」より、※2:「R2国勢調査」より

## (4) 森林整備広域連携モデル事業～令和4年度～

### 習志野市と南房総市でマッチング (木材利用モデル)

以前から、都市間交流を行っている習志野市と南房総市でマッチング

**習志野市**  
 地域森林計画対象民有林が存在せず

**南房総市**  
 地域森林計画対象民有林が約12千ha  
 千葉県森林組合などの林業事業体による森林整備が行われている

**森林整備 千葉県 習志野市・南房総市（自治体間連携による森林整備の促進）**

- 習志野市では、令和4年6月に温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明したが、再エネ導入などさまざまな取り組みを進める中、森林がない習志野市において、森林環境譲与税の活用方法やカーボンオフセットが課題となっていた。
- このような中、千葉県の仲介により、令和5年3月に「習志野市と南房総市との森林整備事業等に関する協定書」を締結した。
- 協定締結により、森林環境譲与税を活用し、5年間で約100トンのCO2吸収量を確保することを目標とする。

**事業内容**

- 「習志野市と南房総市との森林整備事業等に関する協定」を令和5年3月28日に締結（協定期間は令和10年3月末まで）
- 南房総市の森林整備費用の一部を、習志野市が同市の森林環境譲与税で負担
- 森林整備によるCO2吸収量を習志野市に還元するカーボンオフセットの仕組みを導入。
- 習志野市は南房総市産の木材の利用に努める。

**【実績】** 森林整備補助 搬出間伐 1.39ha 作業道開設 87m  
森林整備によるCO2吸収量の還元 5.5t-CO2

**工夫・留意した点**

- 南房総市産木材を公共施設等において積極的に利用するとともに、市内の業者等に対して南房総市産木材のPRを行い促進を行うこと。
- 南房総市産材を確実に調達できるよう、千葉県森林組合にて分別管理をする必要がある。
- 計画的な事業実施のため、南房総市・関係団体と連携していく必要がある。

**取組の背景**

- 千葉県の市町村は、譲与税が多い都市部は森林が少なく、比較的森林が多い山村地域は譲与税が少ない傾向にある。
- 習志野市では、森林がないことから森林環境譲与税の使い方やカーボンオフセットの活用が課題となっていた。
- 千葉県が仲介役になり「森林整備広域連携モデル事業」として、南房総市と協定を締結した。

**取組の効果**

- 習志野市としては、整備された森林における温室効果ガス吸収量を習志野市が確保し、習志野市の温室効果ガス排出量から相殺され、南房総市としては、森林整備をすることにより、災害予防や整備費用の削減につながるため、WinWinな関係性を保てる。
- 公共施設に南房総市産の木材を使用することにより、南房総市産木材のPRができる。（令和5年度は、谷津干潟周辺にある遊歩道のベンチを改修修繕した）

**基礎データ**

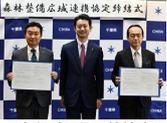
**習志野市**

①令和5年度課税額:18,430千円	②私有林人工林面積(※1):0ha
③林野率(※1):0.6%	④人口(※2):176,197人
	⑤林業従業者数(※2):0人

**南房総市**

①令和5年度課税額:20,058千円	②私有林人工林面積(※1):4,049ha
③林野率(※1):53.5%	④人口(※2):35,831人
	⑤林業従業者数(※2):32人

※1:「2020農林業センサス」より、※2:「R2国勢調査」より





(令和5年3月の締結式) (間伐された森林) (南房総市産木材を利用したベンチ)

17

**(5) 課題と今後の展望について**

**課題**

- 都市地域の要望にマッチングする  
市町村の選定（都市地域が何を重視するか）
- 森林地域での森林整備に係るキャパシティ  
（担い手や受手自治体の業務量など）

**展望**

- 広域連携を望む市町村は、  
都市地域と森林地域ともにあることから  
引き続き支援を行う

18

18